

剣岳・点の記

2009.06

1年振りに映画館に足を運びました。

剣岳・点の記です。

原作は新田次郎で、陸地測量部の柴崎芳太郎が陸軍の命で測量のため案内人の宇治長次郎と剣岳に登頂する物語です。

マスメディアの前評判が高く、ヤマケイにも詳しく紹介されていたので、封切りを待ち望んでいました。なお、ヤマケイ6月号はこの記事のために在庫がなくなったそうです。これは皇太子が登った山の特集以来ではないかと思います。



始めは原作に沿って展開していましたが、途中から原作にないシーンがかなり出てきました。雪崩や滑落等の若干違和感があるシーンもありますが、リアルな山の美しさと厳しさの光景が次々と現れ、これらを補って

余りあるものでした。CG やヘリを用いずに、ひたすら山にカメラを据えて撮ったことがよく分かります。俳優やスタッフは監督から「これは撮影だと思うな。お釈迦様の教えにある苦行だと思え。」と言われて、重荷を背負って岩場や雪渓を長時間登り下りし、何十日も山小屋で過ごしたそうです。山小屋ですからスターでも相部屋の雑魚寝は当然です。我々が山に登ったときと同じ様な苦労をして作ったことが分かる映画です。

また、柴崎は新田次郎の小説によって名が出ましたが、多数の無名の人の苦労によって、現在私達使っている地図の原型が作られていると思うと感無量です。等高線の1本1本が簡単に引かれたものでないと考えると、今以上に丁寧に地図を読まなければいけないと感じました。